
第 1 章

平成23年の福島県経済の概況

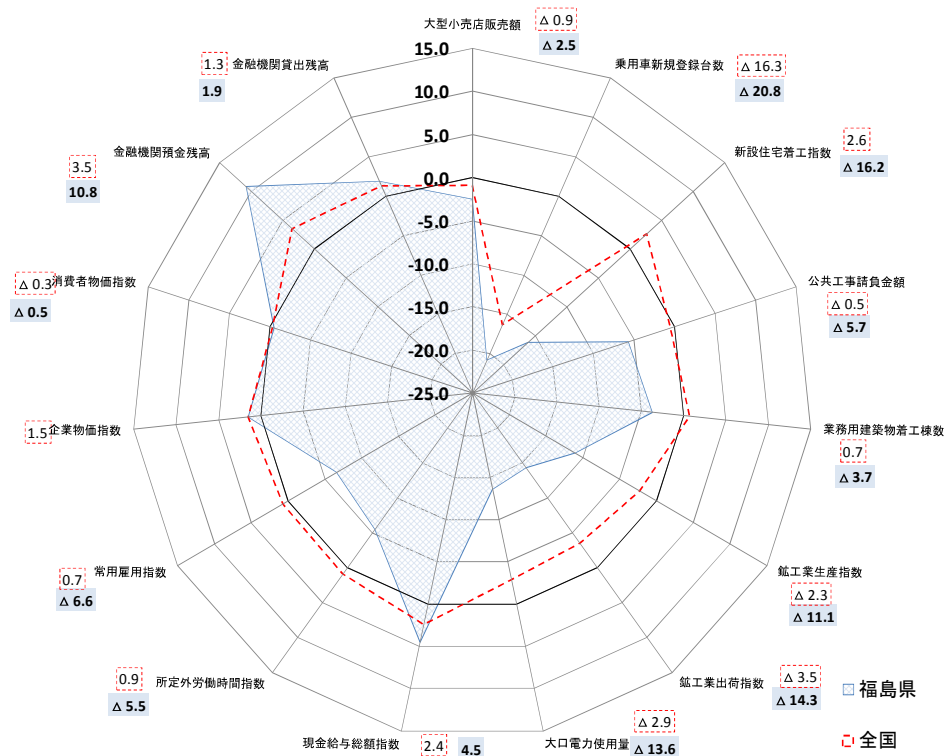
第1章 平成23年の福島県経済の概況

◆ 概況

平成23年(2011年)の福島県経済は、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う大津波、さらに東京電力福島第一原子力発電所事故(以下「大震災」という。)の影響を受け、急激に悪化した。その後、復興需要による持ち直しの動きもみられたが、海外経済の変調や歴史的な円高の影響もあり、厳しい状況が続いた。

大震災は国にも大きな影響を与えたため、図1に各指標の福島県及び国の対前年比を示して比較する。

図1 各指標の対前年比



※企業物価指数は国の値のみ、消費者物価指数は福島市の調査結果。

※平成23年度の各指標の前年比について、景気に対して累進性(増加することで景気が回復しているとみれる)がある指標をレーダーチャートで表した。景気に対して逆進性(増加することで景気が後退しているとみれる)がある指標、前年比ではなく前年差でみる指標などについては、P7以下を参照ください。

【個別指標の概況(国と福島県の比較)】

- ◆ 個人消費は、店舗等の被災、生活必需品の需要増はあったものの消費の自粛ムードの広がり、前年度のエコカー補助金終了の反動による乗用車需要の大幅な減少などの影響により減少した。国の対前年比の減少率よりも、大型小売店販売額で1.6ポイント、乗用車新規登録台数で4.5ポイント低い落ち込みとなった。
- ◆ 建設需要は、復旧工事の需要はあったものの、年間としては、予定されていた工事の中止や見合わせなどにより、大幅に減少した。国の対前年比の減少率よりも、新設住宅着工指数で18.8ポイント、公共工事請負金額で5.2ポイント、業務用建築物着工棟数で4.4ポイント落ち込み、大幅な減少となった。
- ◆ 生産活動は、工場などの被災に加え、海外経済の減速、円高の進行、タイの大洪水によるサプライチェーンの混乱などもあって、大幅に悪化した。国の対前年比の減少率よりも、鉱工業生産指数で8.8ポイント、同出荷指数で10.8ポイント、大口電力使用量で10.7ポイントの大きな落ち込みとなった。
- ◆ 労働では、現金給与総額指数が前年より4.5%増加し、国の対前年比2.4%増よりも2.1ポイント増となっているが、所定外労働時間指数や常用雇用指数は国の対前年比の減少率よりも前者が6.4ポイント減、後者が7.3ポイント減となっており、大幅な落ち込みとなった。
- ◆ 物価では、企業物価対前年比1.5%増、消費者物価は国と同程度の対前年比0.5%減となった。
- ◆ 金融では、預金・貸出ともに前年を上回った。特に、金融機関預金残高は国の対前年比3.5%増を大きく上回る10.8%増と大きく増加した。

全体としては、国の対前年比よりも大きく落ち込んでいる指標が多く、大震災の影響が各指標に現れている(図1)。

【福島県経済の四半期別の推移】

◆ 四半期別の対前年同期比で一年間の推移をみると、

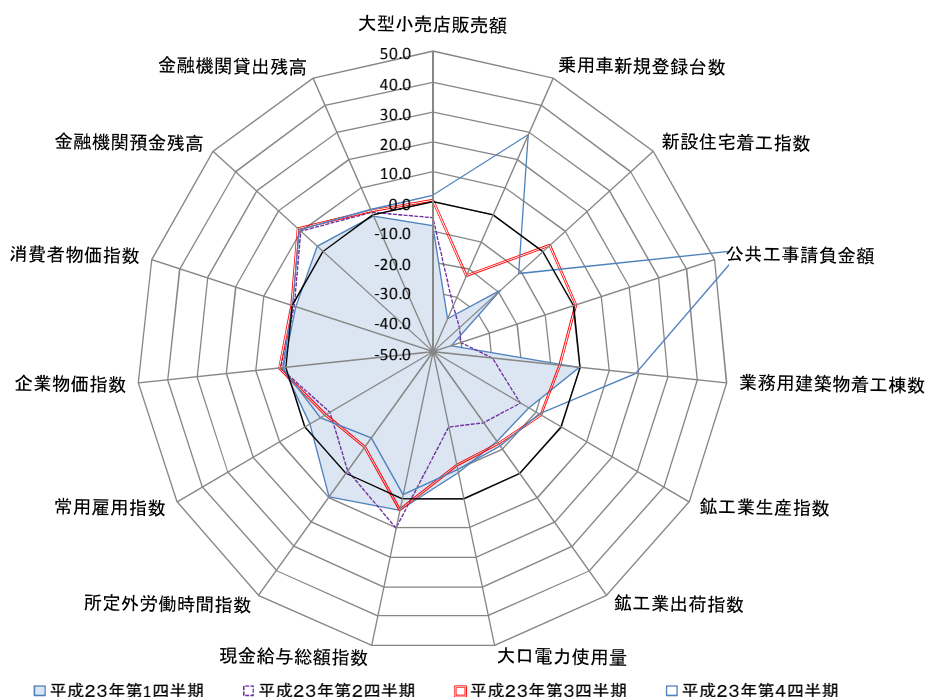
マイナス幅が縮小あるいはプラスに転じた指標が多い中で、所定外労働時間はマイナス幅が拡大していった。

大口電力、現金給与総額指数、所定外労働時間、常用雇用指数は第1四半期よりも第4四半期のマイナス幅が大きかった。

新車登録台数は、前年のエコカー補助金の反動減がなくなった影響で、公共工事請負額は復旧工事の本格化により、第4四半期に対前年比大幅増となった。

生産活動は、第3四半期、第4四半期にかけ対前年比の減少幅は縮小していったが、年間を通して前年を大きく下回った(図2)。

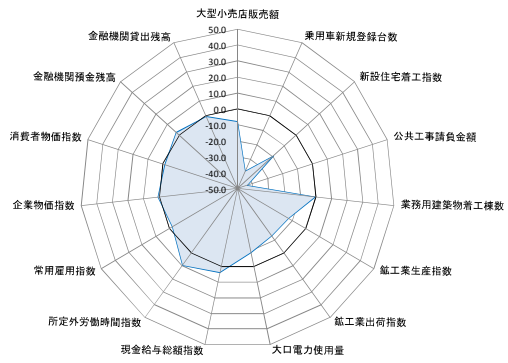
図2 各指標の四半期毎の対前年比



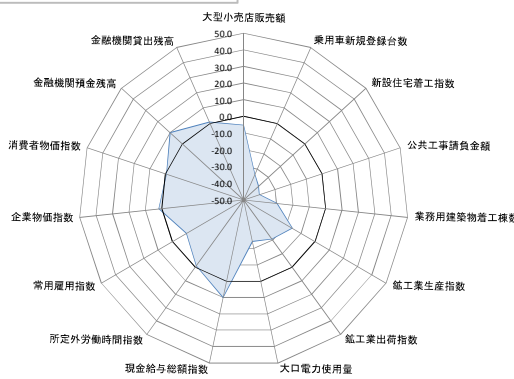
※平成23年3月及び4月は東日本大震災・原子力災害の影響で毎月勤労統計調査を行っていないため、3月の現金給与総額指数、所定外労働時間指数、常用雇用指数は前年と比較できない。また、第1四半期平均は1～2月、第2四半期は5～6月の2ヶ月間の平均値であることに留意する必要がある。図1の国の指標についても、上記の3つの指標については県と同様に1～2月及び5～12月の各月の指数の合計で10か月平均を独自に算出して比較している。

(参考) 平成23年の主要指標の各四半期毎前年同月比及び1~3月の前年同月比

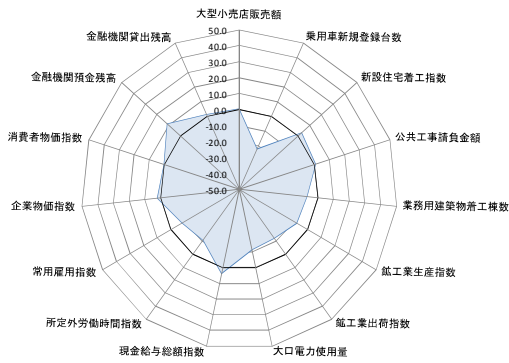
県(第1四半期平均)



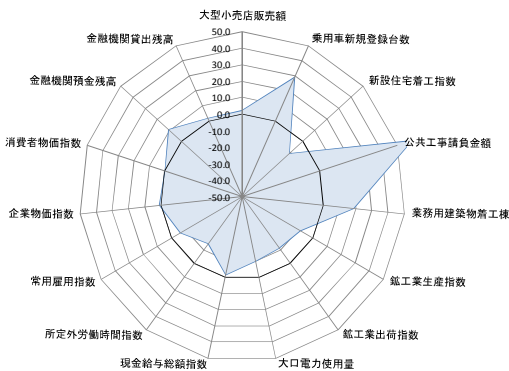
県(第2四半期平均)



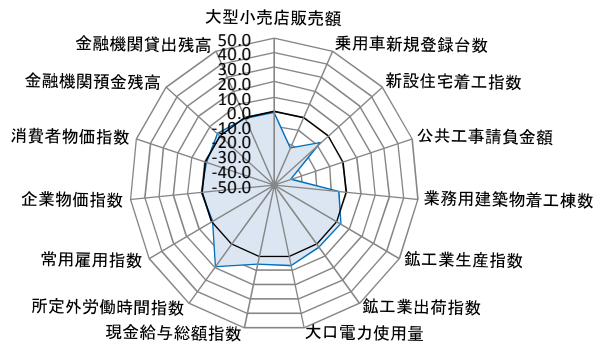
県(第3四半期平均)



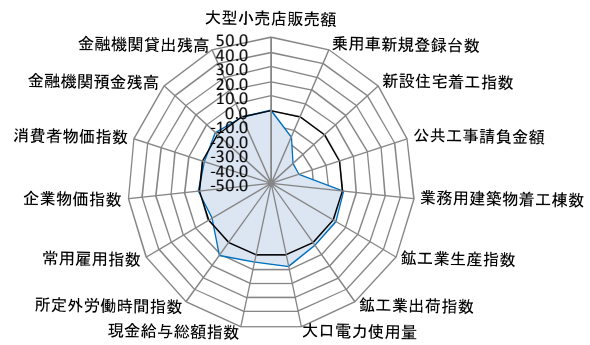
県(第4四半期平均)



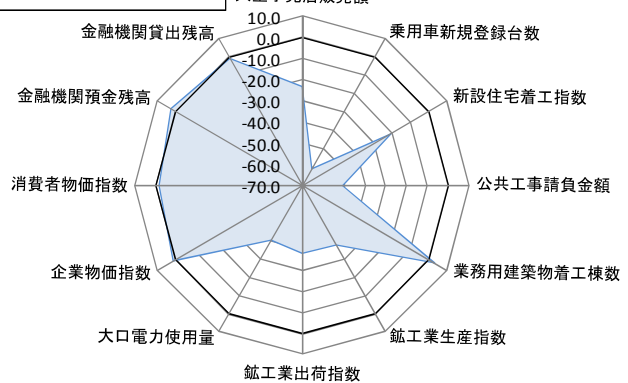
平成23年1月



平成23年2月



平成23年3月

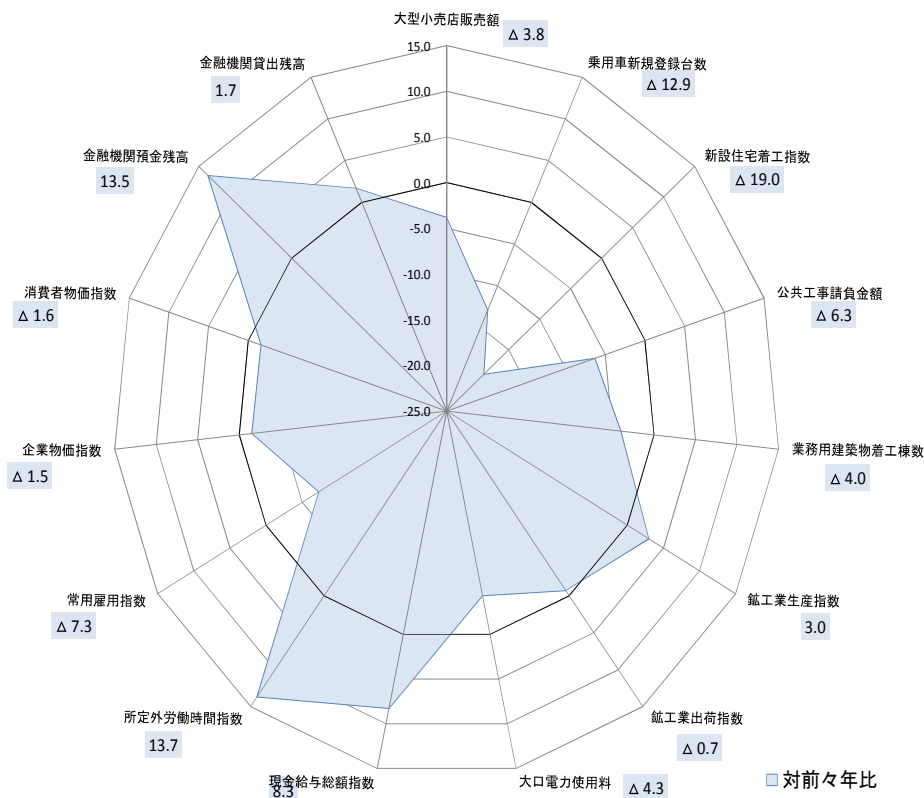


[参考]

【平成21年と平成23年の福島県経済の比較(対前々年比)】

世界的金融危機の影響で厳しい状況が続いた平成21年の各種指標と、平成23年の各種指標を比較した対前々年比で見ると、個人消費(大型小売店販売額、乗用車新規登録台数)、建設需要(新設住宅着工戸数、公共工事請負金額、業務用建築物着工数)、生産活動(うち鉱工業出荷指数、大口電力使用量)、物価(企業物価指数、消費者物価指数)及び常用雇用指数で減少している。(図3)。厳しい状況が続いた平成21年と比較しても落ち込んでいる指標が多く、平成23年の福島県経済の厳しい状況が現れている。

図3 各指標の対前前年比



主要経済指標の概要

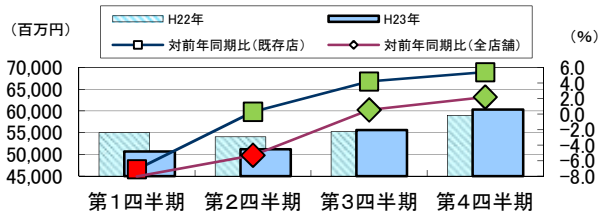
個人消費 前年からの変化方向
 第2四半期以降は生活再建需要による持ち直しの動きがみられたが、通年では大震災の影響により悪化した。

- (1) **大型小売店販売額**は全店舗ベースで総額2,178億200万円、対前年比2.5%減となり、3年連続で前年を下回った。

◆ 詳細は、P15に掲載

(単位:百万円、%)

	販売額	対前年同期比 対前年比(全店舗)	対前年同期比 対前年比(既存店)
第1四半期	50,654	△ 8.0	△ 7.1
第2四半期	51,227	△ 5.3	0.3
第3四半期	55,606	0.5	4.2
第4四半期	60,325	2.2	5.4
H23年	217,802	△ 2.5	0.7

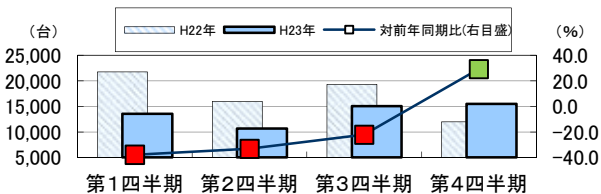


- (2) **乗用車新規登録台数**は54,736台、対前年比20.8%減となり、2年振りに前年を下回った。

◆ 詳細は、P17に掲載

(単位:台、%)

	登録台数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	13,541	△ 37.9
第2四半期	10,674	△ 33.2
第3四半期	15,019	△ 22.2
第4四半期	15,502	29.2
H23年	54,736	△ 20.8



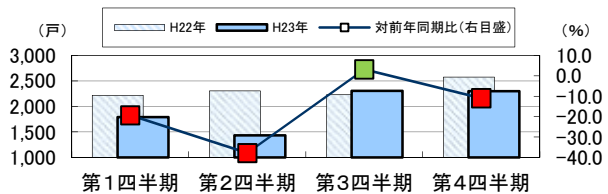
建設需要 前年からの変化方向
 民間需要、公共工事ともに減少したが、年後半は大震災からの復旧工事による大幅な公共工事の増加がみられた。

- (1) **新設住宅着工戸数**は7,826戸、対前年比16.2%減となり、3年連続で前年を下回った。

◆ 詳細は、P19に掲載

(単位:戸、%)

	着工戸数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	1,792	△ 19.4
第2四半期	1,432	△ 37.9
第3四半期	2,306	3.1
第4四半期	2,296	△ 11.0
H23年	7,826	△ 16.2

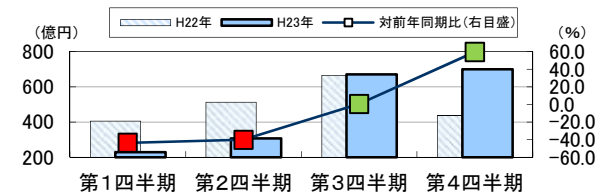


- (2) **公共工事請負金額**は1,909億円、対前年比5.7%減となり、2年連続で前年を下回った。

◆ 詳細は、P21に掲載

(単位:億円、%)

	請負金額	対前年同期比 対前年比
第1四半期	229	△ 43.5
第2四半期	308	△ 40.0
第3四半期	671	0.8
第4四半期	700	59.8
H23年	1,909	△ 5.7

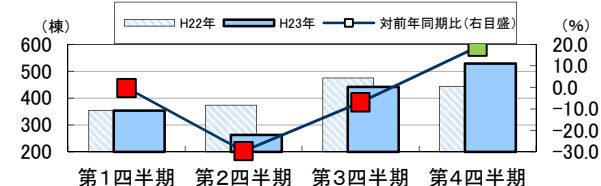


- (3) **業務用建築物着工棟数**は1,588棟、対前年比3.7%減となり、6年連続で前年を下回った。

◆ 詳細は、P23に掲載

(単位:棟、%)

	着工棟数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	354	△ 0.3
第2四半期	263	△ 29.7
第3四半期	442	△ 6.9
第4四半期	529	18.9
H23年	1,588	△ 3.7



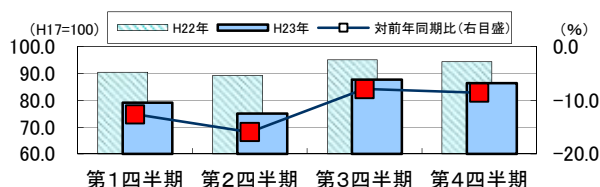
生産活動 前年からの
変化方向 **大震災による工場の停止などにより、大幅に悪化した。**

(1) **鉱工業生産指数**(原指数)は**82.1**(H17=100)、対前年比**11.1%減**となり、
2年振りに前年を下回った。

◆ 詳細は、P25に掲載

(単位: H17=100、%)

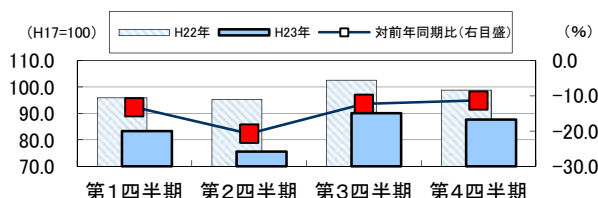
	生産指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	79.1	△ 12.6
第2四半期	75.1	△ 15.9
第3四半期	87.7	△ 7.9
第4四半期	86.4	△ 8.6
H23年	82.1	△ 11.1



鉱工業出荷指数(原指数)は**84.2**(H17=100)、対前年比**14.3%減**となり、
2年振りに前年を下回った。

(単位: H17=100、%)

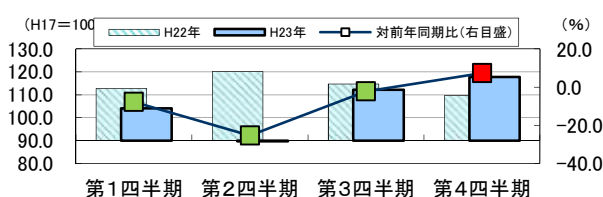
	出荷指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	83.3	△ 13.2
第2四半期	75.6	△ 20.8
第3四半期	90.1	△ 12.3
第4四半期	87.7	△ 11.3
H23年	84.2	△ 14.3



鉱工業在庫指数(原指数)は**105.9**(H17=100)、対前年比**7.3%減**となり、
2年振りに前年を下回った。

(単位: H17=100、%)

	在庫指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	104.1	△ 7.7
第2四半期	89.7	△ 25.3
第3四半期	112.2	△ 2.2
第4四半期	117.8	7.4
H23年	105.9	△ 7.3

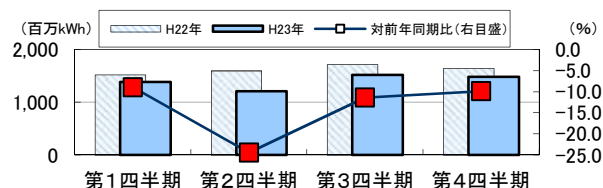


(2) **大口電力使用量**は**5,595**百万kWh、対前年比**13.6%減**となり、
2年ぶりに前年を下回った。

◆ 詳細は、P29に掲載

(単位: 百万kWh、%)

	使用量	対前年同期比 対前年比
第1四半期	1,384	△ 8.9
第2四半期	1,207	△ 24.4
第3四半期	1,520	△ 11.4
第4四半期	1,484	△ 9.9
H23年	5,595	△ 13.6



(四半期値は、月値の平均値)

備考 1 指標名の色について、年値が前年と比較して、改善している指標は**緑字**、悪化している指標は**赤字**、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色で表しています。

2 グラフのマーカーの色について、四半期値が前年同期(前期)と比較して、改善している指標は**緑色(■)**、悪化している指標は**赤色(■)**、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色(■)で表しています。(「前期」と比較している指標は「求人倍率、パートタイム労働者比率、貸出約定平均金利、日経平均株価、円相場、景気動向指数」)

3 第1四半期は「1～3月期」、第2四半期は「4～6月期」、第3四半期は「7～9月期」、第4四半期は「10～12月期」です。

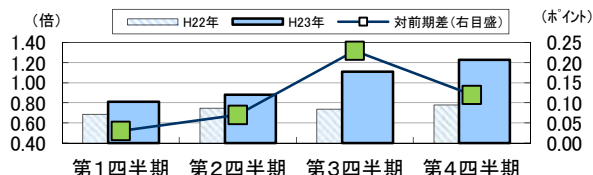
雇用・労働 前年からの
変化方向 **復興関連需要により、一部に改善の動きがみられるものの厳しい状況となった。**

- (1) **新規求人倍率**(原数値)は**0.98倍**、対前年差**0.24ポイント**上昇し、**2年連続で前年を上回った。**

◆ 詳細は、P31に掲載

(単位:倍、ポイント)

	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	0.81	0.03
第2四半期	0.88	0.07
第3四半期	1.11	0.23
第4四半期	1.23	0.12
H23年	0.98	0.24

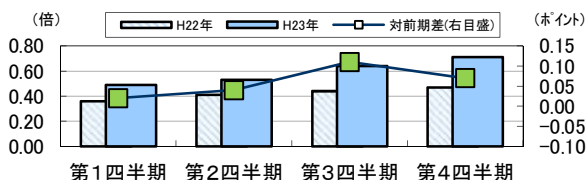


- (2) **有効求人倍率**(原数値)は**0.59倍**、対前年差**0.17ポイント**上昇し、**2年連続で前年を上回った。**

◆ 詳細は、P33に掲載

(単位:倍、ポイント)

	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	0.49	0.02
第2四半期	0.53	0.04
第3四半期	0.64	0.11
第4四半期	0.71	0.07
H23年	0.59	0.17

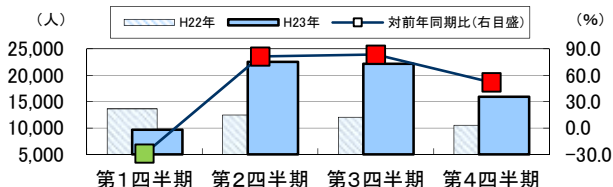


- (3) **雇用保険受給者実人員**(基本手当基本分)は年間平均で1か月当たり**17,570人**、対前年比 **44.4%増**となり、**2年ぶりに前年を上回った。**

◆ 詳細は、P35に掲載

(単位:人、%)

	受給者実人員	対前年同期比 対前年比
第1四半期	9,690	△ 29.2
第2四半期	22,542	81.2
第3四半期	22,145	83.5
第4四半期	15,903	51.9
H23年	17,570	44.4

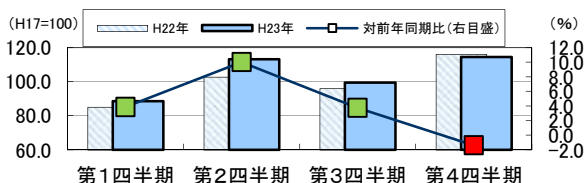


- (4) **現金給与総額指数**(事業所規模5人以上)は**104.5**、対前年比**4.5%増**となり、**2年連続で前年を上回った。**

◆ 詳細は、P37に掲載

(単位:H22=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	88.5	3.9
第2四半期	113.1	10.0
第3四半期	99.5	3.8
第4四半期	114.4	△ 1.4
H23年	104.5	4.5

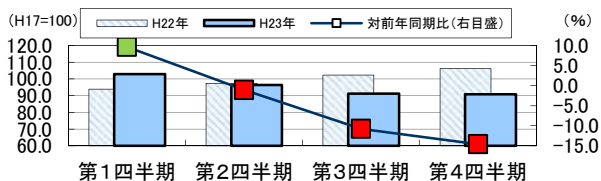


- (5) **所定外労働時間指数**(事業所規模5人以上)は**94.5**、対前年比**5.5%減**となり、**2年ぶりに前年を下回った。**

◆ 詳細は、P37に掲載

(単位:H22=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	103.0	9.7
第2四半期	96.4	△ 1.0
第3四半期	91.3	△ 10.8
第4四半期	90.8	△ 14.6
H23年	94.5	△ 5.5

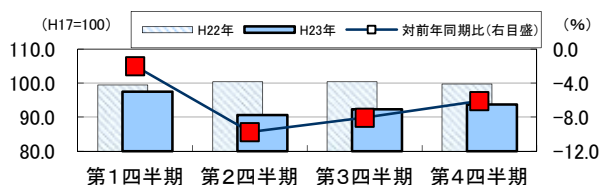


- (6) **常用雇用指数**(事業所規模5人以上)は**93.4**、対前年比**6.6%減**となり、**3年連続で前年を下回った**。

◆ 詳細は、P39に掲載

(単位: H22=100, %)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	97.5	△ 2.0
第2四半期	90.6	△ 9.8
第3四半期	92.3	△ 8.1
第4四半期	93.7	△ 6.1
H23年	93.4	△ 6.6

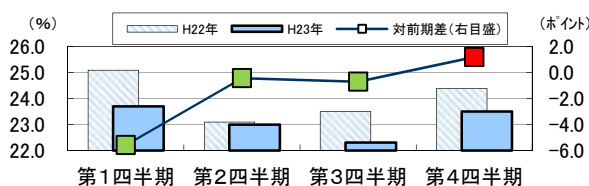


- (7) **パートタイム労働者比率**(事業所規模5人以上)は**23.1%**、対前年比**0.9%ポイント下**降し、**2年ぶりに前年を下回った**。

◆ 詳細は、P39に掲載

(単位: %, ポイント)

	労働者比率	対前年同期差 対前年差
第1四半期	23.7	△ 5.6
第2四半期	23.0	△ 0.4
第3四半期	22.3	△ 0.7
第4四半期	23.5	1.2
H23年	23.1	△ 0.9



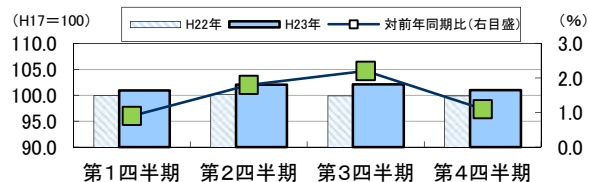
物 価 ^{前年からの}変化方向 **企業物価は前年を上回り、消費者物価は前年を下回った。**

- (1) **国内企業物価指数**は**101.5**、対前年比**1.5%増**となり、**3年ぶりに前年を上回った**。

◆ 詳細は、P41に掲載

(単位: H22=100, %)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	100.9	0.9
第2四半期	102.0	1.8
第3四半期	102.1	2.2
第4四半期	101.0	1.1
H23年	101.5	1.5

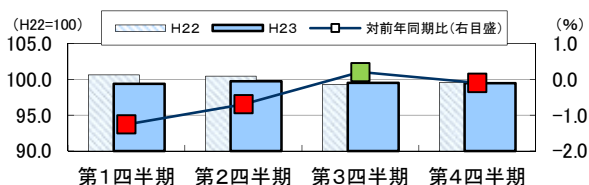


- (2) **福島市消費者物価指数(総合)**は**99.5**、対前年比**0.5%減**となり、**3年連続で前年を下回った**。

◆ 詳細は、P43に掲載

(単位: H22=100, %)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	99.4	△ 1.3
第2四半期	99.7	△ 0.7
第3四半期	99.5	0.2
第4四半期	99.5	△ 0.1
H23年	99.5	△ 0.5



企業・金融 前年からの
変化方向



企業倒産は件数・負債総額ともに前年を下回った。

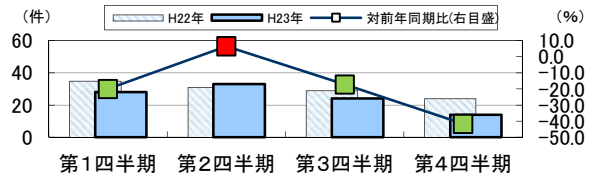
金融は預金・貸出ともに前年を上回り、金利は低下した。

(1) **企業倒産件数**は99件、対前年比16.8%減となり、3年連続で前年を下回った。

◆ 詳細は、P45に掲載

(単位:件、%)

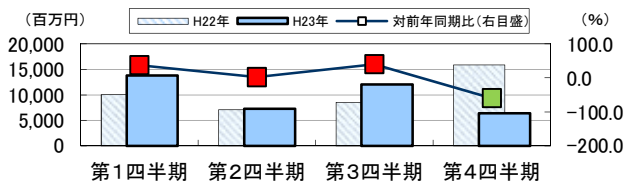
	件数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	28	△ 20.0
第2四半期	33	6.5
第3四半期	24	△ 17.2
第4四半期	14	△ 41.7
H23年	99	△ 16.8



企業倒産負債総額は395億6,900万円、対前年比5.1%減となり、2年ぶりに前年を下回った。

(単位:百万円、%)

	負債総額	対前年同期比 対前年比
第1四半期	13,828	37.3
第2四半期	7,259	2.3
第3四半期	12,066	40.3
第4四半期	6,416	△ 59.7
H23年	39,569	△ 5.1

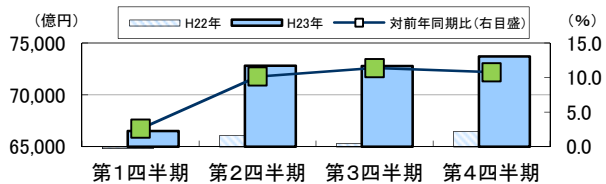


(2) **金融機関預金残高**は総額7兆3,682億円、対前年比10.8%増となり、5年連続で前年を上回った。

◆ 詳細は、P49に掲載

(単位:億円、%)

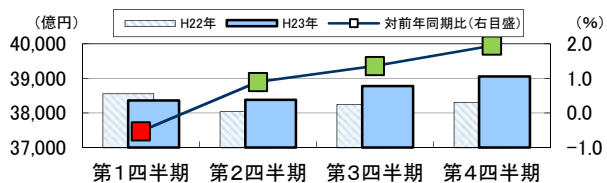
	預金残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	66,522	2.6
第2四半期	72,810	10.1
第3四半期	72,769	11.4
第4四半期	73,682	10.8
H23年	73,682	10.8



金融機関貸出残高は総額3兆9,056億円、対前年比1.9%増となり、3年ぶりに前年を上回った。

(単位:億円、%)

	貸出残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	38,357	△ 0.5
第2四半期	38,384	0.9
第3四半期	38,778	1.4
第4四半期	39,056	1.9
H23年	39,056	1.9

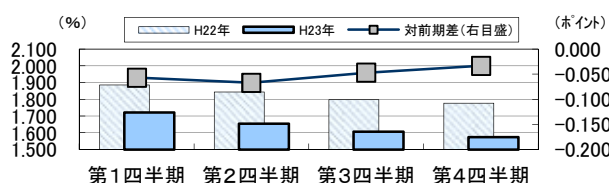


(3) 貸出約定平均金利は地方銀行で1.574%、対前年差0.204ポイント低下となった。

◆ 詳細は、P51に掲載

(単位: %、ポイント)

	金利	対前期差 対前年差
第1四半期	1.721	△ 0.057
第2四半期	1.654	△ 0.067
第3四半期	1.607	△ 0.047
第4四半期	1.574	△ 0.033
H23年	1.574	△ 0.204



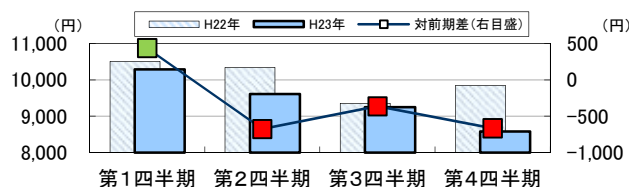
市場 前年からの変化方向 株価は下落した。円相場は円高で推移した。

(1) 東証一部日経平均株価(225種、期中平均値)は9,425円42銭、対前年差582円7銭安となり、2年ぶりに前年を下回った。

◆ 詳細は、P53に掲載

(単位: 円)

	株価	対前期差 対前年差
第1四半期	10,285.30	436.21
第2四半期	9,609.36	△ 675.94
第3四半期	9,246.34	△ 363.02
第4四半期	8,580.64	△ 665.70
H23年	9,425.42	△ 582.07

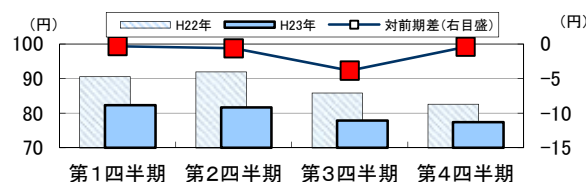


(2) 東京外国為替市場の円相場(対米ドル、期中平均値)は79円76銭、対前年差7円97銭高となり、4年連続で円高となった。

◆ 詳細は、P53に掲載

(単位: 円)

	円相場	対前期差 対前年差
第1四半期	82.29	△ 0.32
第2四半期	81.67	△ 0.62
第3四半期	77.81	△ 3.85
第4四半期	77.39	△ 0.42
H23年	79.76	△ 7.97



景気動向指数 前年からの変化方向 大震災で大幅に悪化した後は、復興需要により上昇した。

(1) 福島県景気動向指数(CI一致指数)は、大震災で大幅に悪化した後は、復興需要により上昇した。

◆ 詳細は、P55に掲載

(単位: ポイント)

	CI一致指数	対前期差 対前年差
第1四半期	47.4	△ 16.9
第2四半期	71.5	24.1
第3四半期	83.6	12.1
第4四半期	89.4	5.8
H23年	89.4	25.1

(四半期値、年値は期末値)

